



冬の野外アクティビティとしてのシマエナガ観察・撮影

旭山記念公園の再整備事業が完了したのが2008年、今年で11年になります。

2002年からの再整備計画中には市民を交えたワークショップが開かれていましたが、そこでは、「冬の公園利用(アクティビティ)を活発にできないか」というテーマも挙げられ、実際に冬にもイベントを行いました。

2月11日(月・祝)に行われる「旭山冬のフェスティバル2019」はその名残ともいえるイベントです。

2006年に森の家が出来てから、少しずつ、冬の利用も増えてきました。

冬に藻岩山に登る人は12年前と比べると格段に増え、天気のいい土日は駐車場がいっぱいになるほど。昼から午後にかけて登り始める人がかつてより増えたのも特徴的です。

また、昨年くらいから森の家でのスノーシュー貸出も増えてきましたが、これはかつてワークショップでも挙げられ取り組んできたことであり、冬の野外アクティビティとして定着してきた感があります。

しかしここに来て、冬の公園利用に新たなアクティビティが加わりました。

シマエナガの観察や撮影に来る人が増えたのです。

シマエナガは、10羽以上の群れで行動する冬の間は観察しやすい時期ですが、ここ2年ほど、防寒対策を施した上で長い時間シマエナガを待っている人が、特に週末に多く見受けられるようになりました。

かつて、どうしたら冬の公園利用が増えるだろうかとみんなで考え悩んでいましたが、まさかこのような切り口で増えるとは予想していませんでした。

冬の間の野鳥観察会の参加者も増え、常に10名以上の方が参加されるようになりましたが、シマエナガをはじめとした野鳥観察・撮影は、冬の公園アクティビティとしてすっかり定着しました。



◆シマエナガは「10羽以上の群れで」「やって来る」という特性により、撮影のためのベストポジション取りや占有の必要がなく、多くの人が散らばっていっせいに撮影できるという利点があります。また、餌を食べに来るところを通常人がいる場所から撮影するため、鳥に与えるストレスもさほど大きくないと考えられます。

野鳥観察・撮影をする人が増えたことは、公園管理の面からも利点があります。

以前は冬になると人がひとり歩ける幅だけ雪が踏み固められて道が狭かったのですが、撮影する人が道を広く使い、歩ける幅が広がりました。

また、人が多いことで園内に活気があり、安全面・安心感も向上しました。

シマエナガを撮っている人はみな嬉しそうな顔をしているのが印象的ですが、野鳥撮影はもはや、冬の公園利用における野外アクティビティの代表に挙げてもいいかもしれません。

しかし、くどいようですが、防寒対策はしっかりと施した上で、野鳥観察・撮影にお越しください。

●野鳥撮影の皆様にお願い●

- 旭山記念公園は、野鳥撮影以外にも、自然散策、登山、犬の散歩など多くの人が訪れます。人が通る際には、道をあけて譲っていただけるようお願いします。
- 隣接する私有地への立入はご遠慮ください。各所に案内板を設けています。
- 撮影している人が他にいる場合「どうぞ」という心のゆとりをお願いします。

「スノーシュー自然観察会」のお知らせ

旭山記念公園では、1月から3月まで月1回「スノーシュー自然観察会」を行っています。

夏には入れない森の中の樹木を見たり、動物の足跡を追ったり、雪の季節ならではの自然が楽しめます。

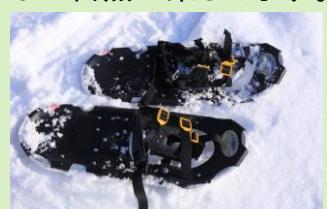
●第2回:2月16日(土)「旭山グランドキャニオンツアーア」

●第3回:3月16日(土)「ひと足早くふきのとうを見に行こう」

それぞれ参加費200円(保険代・資料代込み、スノーシュー貸出無料)

事前予約が必要です、参加ご希望の方は森の家までご連絡ください。

※森の家では、金土日祝日の開館日に常時スノーシュー無料貸出しています。



「木についた雪のかたまり」=雪地蔵

冬の旭山で目につくのが、「木についた雪のかたまり」。

これを「雪地蔵」と言い習わす地域もありますが、いろんな形に見えて楽しいですね。

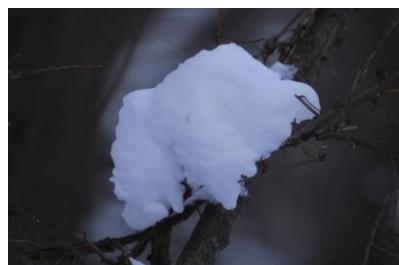
例えば…



冬の白蛇

つる植物に雪がつくと蛇のような形になります。

「雪ひも」とも呼ばれます。
「芋虫」形もよく現れます。



今年の干支
←イノシシ

フクロウ
→



木に登る
←テン

枯れ葉に
ついた雪→



2月の野鳥トピックス

◎ウソが減った…ウソは10年ほど前まで冬にほぼ毎日必ず見られる鳥でしたが、ここ数年はむしろ旭山では珍しく、遠くで声が聞こえることはあっても近くで見る機会は減りました。原因不明ですが、気になります。

★シマエナガ=12月から1月は、10羽以上の群れが森の家周辺から風の丘にかけての辺りでよく見られました。一方で、早くも群れから離れつがいで行動する姿もしばしば観察されるようになりました。この先2月中旬までは同じくらいの頻度で観察できると思われます。

★ヒレンジャク=1月下旬に15羽前後の群れが現れ、2月7日現在

まだ滞在していますが、ヒレンジャクが2月に入ても見られるということは今までありませんでした。

★ツグミ=数羽が比較的よく見られています。1月中には亜種ハチジョウツグミの姿も見られました。

★クマゲラ=ここひと月は西側エリアで多く観察されました。

★オオアカゲラ=森の家周辺などでまだよく見られています。

★ノスリ=園内での観察情報が多く上がっています。

★シメ=公園の周りの住宅街で数羽の群れがよく見られています。

★キクイタダキ=1月もよく見られました。

★マヒワ=1月下旬から7羽程度の群れが見られるようになりました。

★キバシリ=1月中旬から囀りが聞かれるようになりました。木の上の方で「チュリチュリチリー」といった複雑な声できれいに鳴きます。

◎囀り…12月ゴジュウカラ、ハシブトガラ、1月ヤマガラ、ヒガラに続き2月シジュウカラも囀り始めました。

◎今年の冬鳥…1月に入り、ヒレンジャク、マヒワ、亜種ハチジョウツグミなどの動きが少しだけ出てきましたが、やはりこの冬は冬鳥が少ないという印象は変わりません。春の移動の時期にどうなるか注目です。



編集後記

「スノーシュー」で旭山を歩く人が増えていますが、この「スノーシュー」、
両足2つでひと揃いだから、本来は「スノーシューズ」になるはずでは…?
ですが、「シューズ」が日常的に履く「靴」として昔から定着しているため、
「靴とは違うモノ」という意味で「スノーシュー」になった、と考えています。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第60号 2019(平成31)年2月8日発行

発行：(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所：〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

連絡先：電話 011-200-0311 (土・日・祝日10時~16時) FAX 011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/>